

(様式4)

令和3年度 自己評価結果報告書

学校名 湯梨浜町立羽合小学校

校長名 谷 口 章 人 印

1. 学校の教育目標

「やさしく かしく たくたくましく」

～仲間とともに 地域とともに 未来を切り開く子どもの育成～

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

○落ち着いた生活の中で、「個」と「集団」の力を伸ばす。

○育てたい（育てなければならない）資質・能力が身につく授業改善を進める。

○地域とつながり、地域に根ざした教育活動を充実させる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1)【やさしく】 ○進んであいさつ A ・児童アンケート 80%以上 ○友だちを大切にされた言葉遣い B (さんづけ) ・児童アンケート 93%以上 ○あたたかい学級づくり B ・児童：hyper-QU ・失敗したときクラスの人を励ましてくれる 80%以上 ・あなたの気持ちを分かってくれる人がいる 80%以上 ・何かしようとするとき、クラスの人を協力してくれる 88%以上	B	→中間期 82.5% 後期 80.5% ・児童の自己評価は高いが、「あいさつ」を朝のあいさつだと捉えているかもしれない。いつでも、どこでも、誰にでもあいさつをする大切さについて引き続き指導していく。 ・SSTは引き続き取り入れる。 →中間期 91.4% 後期 91.3% ・SSTは今後も学習した方がよい。 ・あたたか言葉の取り組みも継続したい。 ・名前を大切にすることが自分も友だちも大切にすることにつながることを継続指導する。 ・「ありがとう、ごめんなさい」(97.2%) →中間期 76% 後期 79% ・SSTを引き続き行うことで、学級づくりを進める。 →中間期 75% 後期 82% ・いいこと見つけを工夫してきたことで自信を持てたり、友だちのよさをいろいろな視点で見つけたりできるようになってきた。 →中間期 80% 後期 85% ・学級レーダーチャートを活用したクラス会議を実施したのが良かった。今後も、クラス会議を実施しながら学級づくりを進めたい。

(様式4)

(2)【かしこく】 ○ICT機器の効果的な活用 A ・教師アンケート 80%以上 ・児童アンケート全項目 80%以上 ～タブレットを使って～ ① 電源の ON, OFF ができる ② アプリの開閉ができる ③ 写真が撮れる ④ 絵が描ける ⑤ ペンを使って操作できる ⑥ 絵や写真などを組み合わせた作品が作れる ⑦ 作品や文書を保存、印刷できる ⑧ ローマ字入力ができる ⑨ インターネット検索ができる ⑩ 発表スライドができる ⑪ 検索情報から必要なものを見つけられる ⑫ タブレットの良さが何かわかる ○基礎・基本の定着 B ・国語・算数の単元テスト 80%以上 ・週に1回程度、「ことばのちょきんばこ」を活用した。80%以上	A →中間期 毎日活用 65% 週回程度活用 35% 後期 毎日活用 61% 週回程度活用 29% ・学級担任に限ると、72%が毎日活用、24%が週2回程度活用。 ・回数よりも授業での効果や質にシフトしてきている。 →中間期 1・2年(①～⑤) 全て 90%以上 3・4年(①～⑨) ① ② ③ ⑤ ⑨ : 80%以上 ④ ⑥ ⑦ ⑧ : 80%を下回る 5・6年(①～⑫) ① ② ③ ⑤ ⑧ ⑨ ⑪ ⑫ : 80%以上 ④ ⑥ ⑦ ⑩ : 80%を下回る →後期 1・2年(①～⑤) ① ② ③ ⑤ : 90%以上 ④ : 78.1% 3・4年(①～⑨) ① ② ③ ④ ⑤ ⑧ ⑨ : 80%以上 ⑥ ⑦ : 80%を下回る 5・6年(①～⑫) ⑥ ②③④⑤⑧⑨⑪⑫ : 80%以上 ⑥ ⑦ ⑩ : 80%を下回る ・各学年とも、アウトプット活動での活用が進んでいるとみられる。80%を下回った設問もあるものの、ほとんどの項目で肯定的回答の割合が上がった。 →国語 中間期 80% 後期 82.4% 算数 中間期 80% 後期 78.4% ・算数が中間期より下がっている。 ・領域も関係しているかもしれないが、基礎基本のさらなる定着を図っていく。 ・テストの誤答分析を行い、課題となる単元の復習を重点的に行う。 ・テストを繰り返し行い、理解を深める。 ・「友だち先生」を活用し、説明しあうことで理解を確かなものにする。 ・計算問題のプリントを用意し、いつでもできるようにする。(1年たし算・ひき算、2年～6年かけ算) →週に1回の短文作りの時間が十分に確保できなかった。 ・年間を通して、週に1回の取り組みは難しかったが、2週間に1回はできた学年が多い。
---	---

(様式4)

・本の借し出し冊数 低・中学年：80%以上 (中間50冊、年間100冊) - 高学年：70%以上 (中間40冊、年間80冊)		・語彙を広げるため、文章理解につなげるために短文作りは効果的なので、単元ごとに実施していく。 →中間期 低学年 70冊、中学年 76冊、高学年 62冊 後期 低学年 130冊、中学年 136冊、高学年 100冊 ・個人差が大きい。同じ児童が多く借りている。学習で使用する関連図書は教室に置いて読んでいる。 ・本を紹介するなど、声かけを引き続き行い、読書への興味を持たせていく。
(3)【たくましく】 ○基本的な生活習慣の定着 B ・ワークシートの回収率 85%以上 ・ぐっすりデ一の達成率 85%以上 ・ハワイふれあいデーの結果 85%以上 ○体力の向上 A ・運動することが楽しい。 (児童アンケート) 85%以上 ・お子さんは学校で元気に体を動かしている。 85%以上 ○あきらめず粘り強く取り組む 児童の育成 B ・だいたい掃除にがんばっているか。 (児童アンケート) 85%以上	B	→中間期 実施せず 後期 87% ・来年度は、保護者対象の研修会などを実施したい。 →中間期 6回実施 5回が 85%以上 後期 年間 10回実施 9回が 85%以上 →中間期 1年(45.1%)、2年(54.4%)、3年(49.4%)、 4年(41.5%)、5年(61.1%)、6年(34.7%) 後期 1年(53.7%)、2年(68.8%)、3年(54.0%)、 4年(57.1%)、5年(43.3%)、6年(55.4%) ・メディアと接する時間の目標を設定し、全て達成した割合を集計した。※(完全ノーメディアが指標) ・中間期と比較し、改善された学年もあるが、大きな変化はなく、目標が達成できていない。 →中間期 85.2% 後期 89.0% ・チャレンジトレーニングの成果が少しずつ出てくる。 →中間期 86.6% 後期 88.3% ・投領域の力が全体的に弱い。 →中間期 95.9% 後期 94.3% ・コロナ対策で掃除道具が変わるが、「黙って」をさらに徹底する。 ・教員がいると頑張れる児童が多い。
(4)【開かれた学校】 ○積極的な情報発信を行う B ○地域に学ぶふるさと教育の 推進を行う B	B	・10月学習発表会、11月参観日を実施。9月、2月の参観日は中止。 ・学級、学年、学校だより等、随時発行しているが、実際に児童の活動を保護者に見ていただく機会が確保できていない。 →HPの更なる充実・更新 ・毎日のようにGTにお世話になった。(習字、家庭科、放課後学習 等) ・GTにお世話になった学年を中心に、学級、学年たより等で成果を発信した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(様式4)

結 果	理 由
B	・新型コロナウイルス感染症の流行やその他の状況などにより学校経営・学校運営が簡単ではない中であつたが、概ね目標とする数値を達成することができた。 ・目標としていた数値を超えてはいるが前期に比べ後期の数値が下がっている項目もあり、取組みの活性化が必要な項目もある。(進んであいさつ、算数単元テスト) ・本年度から導入されたタブレットの活用については、年間を通して利用回数の向上をめざしていたが、利用内容や学習効果の向上など質的向上にも取り組めた。 ・コロナ禍の中で保護者に児童の学習や生活の様子を具体的に見ていただく回数が確保できなかった。児童や学校の様子を伝える更なる情報発信が求められる。

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
あたたかい学級づくりと あいさつ	あたたかい学級づくり ・SSTを取り入れた学級づくりの推進。 人権教育の推進 ・具体的な人権問題、いじめ、命の学習 ・体験や交流活動の実施 あいさつ ・あいさつ運動の継続とPTAや地域と一緒にになった取組の推進。
基礎学力の定着と授業改善	基礎学力の定着 ・NRTテスト分析による各教科の弱点領域の克服。 ・放課後学習を活用した反復学習の実施。 ・初任者研修メンターチームを活用した授業改善。 授業改善 ・子どもたちの体力向上や正しい生活習慣の定着に向けた取組。 言語活動の充実 ・「ことばのちょきんばこ」の取組みの充実。 ・読書活動の推進。
体力向上と基本的な生活習慣	運動の興味関心・体力向上 ・スポーツ教室の継続実施 家庭・地域との連携 ・基本的な生活習慣の定着 ・アンケート等による実態把握と啓発 ・ぐっすりデー、親子ふれあいデーの実施等、PTAとの連携。